
縁がわかる男

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

縁がわかる男

【Nコード】

N0891Y

【作者名】

山野つつじ

【あらすじ】

これから自分に縁があると感じると「あつ…。」という予感を感じる。「あつ…。」と感ずること、これから俺と縁があるわけなんだけど…。

今日で会社を無断欠勤して三日になる。
一度も外にでていないし、電話にもでていない。俺を訪ねて来る人もいない。

なんでそんなことをしてるかって？

まあ、話せば長い話しになるんだけど…。

最初に「あれ？」って思ったのは小学校二年の時だったかなあ。
街ですれ違う同じ年頃の女の子が俺とすれ違ったわけよ。

今まで見たことなんかない女の子だったんだけど、すれ違ったとたんに「あつ…。」って思ったわけ。

その「あつ」っていう感じは、うーん、なんて言ったらいいのかなあ…。

んでさ、その翌日に先生が黒板の前で紹介したのがその女の子で、俺の隣の席にやってきたんだけど。

その時はまだそれが何だってことなのかわからなかったんだけど、予感みたいなものに近いっていうのかなあ。

ん？まだ俺の言ってることよくわからない？

じゃあさ、違う出来事を話すよ。

俺のおふくろは、いわゆる世間で言われるところのバツ1って言うヤツなんだ。

んで、俺が高校三年の時にバイト先にきた客でさ、俺がレジ係してるところにやってきた男がいて、小学校二年の時の女の子とすれ違った時と同じ感覚の「あつ…。」ってなってるさ。

んまあ、その男が今の俺のオヤジになってるわけなんだけど。

そっつい感じでさ、これから俺と縁がある相手に会つと「あつ…。」

「ってなるわけよ。」

あ、それからこんなこともあったっけ。

交差点で信号が変わるのを待ってる時に、手前の信号で止まっている車の一台に「あっ…。」ってなっただけど。

案の定、俺の前の信号が変わった時に、その車俺に突進してきた轢かれちゃったんだけど。

んまあ、その時は足の骨折なんていうおまけもあったんだけどね。

ああ、それでなんで家に三日も閉じこもってるかって？

それがさ、三日前の朝、ちゃんと会社に行こうと思ってたわけ。

朝のニュースをコーヒー片手に見てたんだけど、画面にすごい人相の悪い男の顔がでてさ。

俺、画面を見てて「あっ…。」ってなっちゃったわけ。

アナウンサーがなんて言ったと思う？

「凶悪殺人犯逃走中」だってさ。

ガチャガチャ…と誰かが俺のアパートのドアノブを回している。

ああ、遂にきたか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0891y/>

縁がわかる男

2011年11月12日14時24分発行